非宗教的信仰

前陸軍教授 槍山鋭著

東京 二松堂發行

327-639

非宗教的信仰

45. 2. 19
內交

自序

完全なる文明は物質的文明の精神的文明と併進して始めて得らるゝなり、若し夫れ物質方面のみ進みて精神方面之に及ばずんばそは片輪の文明たるを免れず、つら〳〵我國現時の風潮を觀察するに確かに前記の傾向あるを認む、一夜客あり話次昨今喧しき宗教利用問題に及び、社會の腐敗、宗教利用の困難、教育ある者の信念の缺之等、論じ去り論じ來り夜の闌なるを知らざりき、著者の時勢に對する憤慨と實驗上の結果とは玆に凝結して此著となる、若し聊かにても讀者を益するあらば獨り著者の幸福のみに非るなり、以て序となす。

明治四十五年二月　著者記す

天地正大氣　粹然鍾神洲
秀爲不二嶽　巍々聳千秋
注爲大瀛水　洋々環八州

天地有正氣　雜然賦流形
下則爲河嶽　上則爲日星
於人曰浩然　沛乎塞蒼溟

目次

第一章　緒論……一
第二章　何人も宗教心を有す……五
第三章　宗教成立の三階段……八
第四章　宗教と迷信……二二
第五章　既成宗教及び宗教家に就て……三一
第六章　理想的宗教……四一
第七章　非宗教的信仰……五一
第八章　神佛天とは何ぞ……五七
第九章　信仰ある者となき者との優劣……七一
第十章　信仰と教育……七四
第十一章　結論……七七

非宗教的信仰

檜山鋭著

第一章　緒論

明治初年の社會心理

顧みれば今から二十四五年前明治二十年頃のことであつたらうと思ふ、五六の友達と一處に或神社にお詣りに往つたことがある、其時に友達の一人がお賽錢を献げて手を合せて拜んだ處が、皆して冷評半分に笑つたことがあつた、其時の言葉を今から考へて見ると、何でも、舊弊である、天保時代の老人の樣であると云ふ樣な意味であつたと覺えて居る。

西洋心酔主義の跋扈

此時代を歴史の上から考へて見ると、西洋心酔主義の

西洋心酔主義の影響

盛んな時代で、舊物破壞主義の跋扈した頃であつたと思ふ、其後になつて、前の心酔主義の反動が來て、國粹保存主義が起つたけれども、歐米の物質的文明は滔々として我國に流れ入り、爲めに我國人の精神界は大分荒らされたのである、これが爲めに我宗教界は非常の逆境に陷つた、何でなくても從來の宗教は迷信的分子を含んで居つたのであるから、物質主義の眼から見、科學的智識を以て判斷したならば、宗教の權威の失墜するのは無理もない次第である、吾々明治時代に生れた人間は斯かる時勢、斯かる風潮の影響感化を受けて生長し來つたのであるから、吾々の心に宗教的趣味のないのも尤の次第である。

されば云ふて、此儘に過ごして往つたなら、吾々の精神界は何うなるだらうか、全體吾々人間には、宗教心と云ふものは絶對的に無いものであらうか、それとも在るは在るが常には隱れて居るもので、何か機會があると顯れるものであらうか、また吾々人間は宗教と云ふものは必要なものであらうか不必要なものであらうか、假りに必要だとしても、そは明治以前の老男老女若くは明治以後の無學文盲の人丈けに必要にして、教育ある人間には必要を認めないだらうか、この宗教心の有無、宗教の必要不必要、これ大に研究すべき問題であらうと思ふ、さうして此の問題は學者の推定論や、卓上の想像論は許さないのである、實際其境に到つたものでなくてはこれを論ずる資格は無いのであらうと思ひます。

學者と實際家との衝突

世の中には學者と實際家とある、これは何れの方面に於てもさうである、教育でも法律でも經濟でも皆さうである、そこで時によると此學者の説即ち學説と實地家の説と衝突矛盾することがある、經濟の方面などに於ては殊にそれが甚しい、近來は醫術の方面に於ても中々衝突が甚しい、即ち彼の精神療法の如きはそれである、醫師全體とは言はないが或る一部の醫師の如きは甚だ狹き物質的智識を以て之が解釋を試みんとしつゝある、實に慨すべく歎ずべきことである、宗教界に於ても學者と實際家とあり、哲學者は多くの場合に於て宗教學者であつて、宗教家は實際家である、ところが今日の現狀を見ると學者は有れども實際家は尠ない、名實共に適つて居る眞の宗教家は晨星も只ならぬ有

樣である、迷信的に非る宗教家、教育ある者が就て修むべき宗教家果して幾人あるか、私共一向つまらぬ人間であるが、此のつまらぬ人間が見て以て眞に尊崇すべき宗教實際家果して幾人あるか、甚だ心細い氣がしてなりませぬ。

第二章　何人も宗教心を有す

何人も宗教心を有すなどと言ふたら教育ある方は定めて驚くだらう、驚く許りでなく中には腹立つ方もあらう、其驚くことも腹立つことも尤である、吾々も精神界に足を容れない中は矢つ張り其黨の一人であつたのである、元來人間の心には顯在的精神と潛在的精神との二樣あつて平生は顯在的のみ働いて居るから潛

何人も宗教心を有す

威勢盛りに神祟りなし

斷じて行へば鬼神も之を避く

宗教心の起る場合

在的のあることを認めないが、それが何か機會があると潜在的精神が働き出す、其時に宗教心を認めることが出來るのである、世の諺にも「威勢盛りに神祟りなし」と云ふて人の運勢の盛な時には物事が總べて順境に運び、思ふ事は何事でも通り爲すことは成就せざることは無いと云ふ有樣で心に何一つ不足がない、これは官吏でも實業家でも同じことである、斯かる際の精神狀態は至極健全で精神が充滿して居つて毫も缺陷が無いから外物の爲に我が心身を支配せらるゝと云ふことが無い、從つて神を崇拜しなかつたところで、病氣にも罹らないと云ふ樣な譯である、斯かる際には心に不足がないから別に自己以外に或る偉大なる者の力を借る必要を認めない、故に宗教心は起らないのであ

かなはぬ時の神頼み

神道

る、ところが一たび逆境に向ふと云ふこ、すること爲すこと皆意の如くならず、嚮きの威勢盛りの時の勇氣は何れへか逃げ去り、青菜に鹽をかけたる如く凋れ還り中には往々病に取り付かれるもある、是に於てか、彼の潜在的の心がむらむらと顯はれ出て來て或る偉大なる者の力を借らんとの念が起る、これが即ち宗教心なのである、又彼の戰場に臨んだ人の話を聞くに、平生は神や佛を信じない人でも、いざ戰場に臨むとなると自然に神佛に依頼する心が起ると云ふことである、それから、神祭の儀式の時に神官が笙や篳篥を吹き祝詞を奏するときは頭がシーンとして腹の中まで空になつた樣な氣持ちがする、此の時の心の狀態は顯在心が無くなつて潜在心が働くのである、故に斯かる際には吾

佛教

耶蘇教

人は何等の慾望もなく何等の雜念も起らず、只存するものは畏敬の念のみである、此の畏敬の念が即ち宗教心なのである、又葬式の時にお寺のお堂で僧さんがお經を讀む時には邊りが寂として只聞ゆるはス、リ泣きの聲のみである、斯かる際には吾人は一種悲哀の感に打たれる、これも矢張り宗教心である、耶蘇の教會堂に往つて牧師の説教を聞き讃美歌を歌ふ時にも俗界を離れた樣な氣持ちがする、これも宗教心である、して見ると宗教心の顯はるゝ場合と顯はれない場合とはあれども誰でも宗教心の無い者はないのであります。

第三章　宗教成立の三階段

以上は現今の人類即ち開明に赴いた人間の心情に就いて述べたのであるが、今度はずつと遡つて古代の未開人の心情に就いて、如何にして宗教心が起り、そうして宗教と云ふものが、如何云ふ工合に發達し成立したかと云ふことを述べて見やうと思ふ。

心の三別

無念無想

吾人の心は之を智と情と意との三つに別つことが出來る、勿論心と云ふものは元來一つものではあるけれども研究の便宜上學者が三つに別つたのである丁度物理學上で光線を三稜玻璃によつて別てば七色になるけれども合すれば一つとなり遂には無色となると同じ樣な譯である、吾々の心も或時は有となり二つにも三つにも別れるけれども又或時は無となる此無となつた時が即ち無念無想なのである、普通の人は此無念無想になると云ふことが中々困難である、若しも自

分の思ふ通りに直に無念無想になることが出來たならば其人は慥に精神修養の積んだ人である、讀者諸君試に端座して眼を閉ぢ默想して御覽なさい何も思ふまいと思へば、思ふ程色々な雜念が起つて來ます其有樣は丁度掃へば來る夏の蠅のやうなものである、諸君は此無念無想になると云ふことを心懸けねばなりません、雜念のむら〳〵と起るやうな人は確固たる信念のない人である、不意の出來事に遭遇すると周章狼狽する人であります、物事に成効しない人であります、此等のことに就いてはまた別に詳論する機會があらうと思ひますから今はこゝらで止めて置きます。

情最も早く發達す

さて智情意の三つの中で何れが最も早く發達したかと云ふにそれは情であります、これは大人より子供、開明の人よりも未開の人に就いて觀察すればよく分ることであります、其情と云ふも喜ぶとか悲むとか愛らしいとか憎らしいとか色々ありますが畏敬の念即ち畏れると云ふこと、敬ふと云ふこと此二つが殊に早く發達したのであります、何故畏敬の念が先に發達したかと云ふことは、追々に分りますが、其畏敬の念を起す刺激となるものは、五官の中の眼の働きを借ることが多い即ち抽象的のものよりは具體的のもの、無形のものよりは有形のものである、それは如何云ふ譯かと云ふに、智力の發達しない故である、此點に就いては今の開明に赴いた時代の人でもさうである、どうも抽象的のことは飲み込み惡くい、例へば病氣を治すにしても、病氣を治すには藥を飲まないでも精神の作用で以て

畏敬の念早く發達す

精神作用

治ると云ふても信ずる者が尠ない、何うしても藥と云ふ有形物を持て來なければ安心が出來ない承知しない、今の開明の人でさへも此の如くであるから況んや古代未開の人に於ておやである、未開の人は智力が發達して居らぬから先つ以て有形的の物に就いて心を働かすと云ふことは尤の次第である、それから未開の人は自分の智力で以て判斷の付かぬ物は凡べて之を畏敬し崇拜した、之を古代の埃及人に就いて見るに埃及人は太陽を拜し河を拜し動物植物を拜した、換言すれば天然物を拜した、さうして其天然物は何れも眼に見ゆる物で吾人に最も多く偉大の感を起させる物である、偉大の感と云ふのは如何しても自分の力で打ち勝つことの出來ないと云ふ感じである、さうすると畏

天然物を崇拜す

宗教發達の第一歩

古今共に迷信

敬の念が起る。畏敬の念が起ると之を崇拜すると云ふやうになる、これが抑宗教發達の第一歩で即ち外界の事物を崇拜すると云ふことが第一階段である、之を論理學の言葉で云へば客觀的直覺的で哲學で云へば唯物的有形的で宗教學で云へば多神教萬有教であります。

此の時代の宗教はまた迷信的でありまず、現時の宗教も、迷信的分子を含んで居りますけれども此時代のは、もつとそれが甚しい、それは智力が發達せずして畏敬の念が盛んであるから之を判別するの力がない、從つて迷信に陷るのである、併しこれは古代の人ばかり笑ふ譯には往かない、此開明に赴いた現今の人でも隨分迷信の者がある、神社の構内にある大木を以て神木と

内界に注意す

釋迦の奮起

なし之を崇敬し、蛇を以て神社の主となし、狐を以ておいなり様のお使となし、太陽を以て神となすの類尠くない（朝起きて太陽を拜するは宗教以外に於て衛生上大に利益あることである）

次に人智の開發するに從つて內界に注意する樣になる、吾人の內心に向つて心的作用の微妙なることに注意する樣になる、彼の佛教だの耶蘇教だのかそれであります、お釋迦樣が佛教を開いた原因は當時の印度の宗教であつた婆羅門教の僧侶が餘り專橫であつたから憤慨の餘り起つたのであらうけれども其當時のお釋迦樣の心的狀態は慥に一種無常の感に打たれて振ひ起つたのである、そは彼の釋迦の四門感なるものが證して餘りある（四門感とは東西南北の四門を出た時に生病老死の四苦の感を起した事である）

そうして難行苦行の結果其肉體は骨と皮ばかりになつて內觀に內觀を重ね、漸く大悟徹底して佛陀即ち一切の覺者となつたのであります、此內觀と云ふのが即ち吾人の內心に向つて觀察したのであります、大悟徹底と云ふのは心が無念無想となり精神が統一して宇宙の大靈と同化したのであります、吾人は諸君が此境に到達するのを希望するのであります、そうして此境に到達するには或者を信仰しさへすれば必ずしも或一定の宗教を必要としませぬ、或はまた釋迦其人にして始めて出來るので誰にも出來るものでないと云ふかも知れぬが決してそんなことはありませぬ、釋迦も人なり我もなり必ず行つて見ると云ふ決心さへあれば何誰でも出來ない者はありませぬ。

さて釋迦か佛教を唱へた當時に在つては小乘大乘の

別なく地獄極樂もなく種々の佛像も無かつたのであります、後の僧侶達が下根の者を濟度するために其方便として小乘も出來、地獄も出來、佛像も出來たのでありました。

耶蘇教

茲で又迷信的になつたのであります。

耶蘇が基督教を創めた當時の猶太國も其國情よく印度に似て居りました、即ち當時の猶太國は羅馬の配下に屬して金銀は羅馬本國に納付を命ぜられ敵するものは奴隷に沒收せられ、源三位頼政にはあらねども、實に當時の猶太人は生きて甲斐なき命にてあつたのであります、實に當時の猶太人は救生主の出でんことを熟望して居つたのであります猶太人が斯く旱天に雲霓を望んで居つた時に茲に救世主耶蘇は出たのであります、そうして內觀の結果、宇宙の大靈と同化し天帝

救世主

耶蘇教の變遷

―神の直覺を得たのであります、耶蘇が自身に「我こそは其救世主である」と叫んだのは慥に確たる信念があつたからで、其確たる信念は內觀の結果得られたのであります。

さて耶蘇が基督教を唱へた當時に在つては耶蘇は決して神の子ではなかつたのであります、それを後の宣教師か布教の方便として三位一體說（耶蘇と神の子と同一）を案出しマリヤの像耶蘇の像をも造るに到つたのであります。此の三位一體說は、丁度我國で行基菩薩が神佛同體說を唱へ弘法大師が本地垂跡說（天照大神の本地は印度にして日本の神は印度の大日如來が跡を垂れ給ふ說なり）を唱へたのと同じ樣な譯で即ち布教の方便としたのであります、耶蘇教も茲で迷信的となりました、其後に至り歐洲では

耶蘇の精神治療

人智の進むに從つて彼の偶像破壞問題が起つて宗教と政治と混同し大波瀾を惹き起したのであります。世人は耶蘇が病氣を治したのを虛言の樣に思ふ、聖書にあることは後世の宣教師が布教の方便として付け加へたのであらうと思ふ者が多い、私なども以前は其一人であつた、處が精神のことを研究するに及んで虛言でないと云ふことが分つた、そうして宇宙の大靈と同化することが出來れば耶蘇でなくても病氣を治すことが出來る、病氣を治す許りでなく、過去現在未來のことも、近くのことも遠方のことも知ることが出來る、時間及び空間に涉つて知ることが出來るのであります、つまり此境の狀態は我精神即宇宙の精神となるのであります、かう云ふことは文章に表はしたつて中々

分らない、自分か實地に研究して其境に到つて始めて會得するのであります、精神を研究しない人が自分の有して居る物質的智識で以て而かも狹隘なる智識を以て精神上のことを彼れ是れ議論する如きは誤つた考と謂はねばなりませぬ、形而下の智識を以て形而上のことを論ずるは根本に於て過つて居ります、尙此等抽象的のことは後章に漸を追ふて述べやうと思ひます、以上述べたところが宗教發達の第二階段であつて、論理學で云へば主觀的抽象的で哲學で云へば唯心的形而上的で宗教學で云へば一神教であります。

現今の宗教は如何なる時代に屬するかと云へば、此の第二階段に屬するのであります、然らば宗教はこれで停止するかと云ふに決してそんなことはありませぬ、

何うしても第三階段に進まねばなりませぬ、然らば第三階段は如何なる宗教であるかと云ふ問題が起ります、既に第一階段に於て客觀的宗教成立し、第二階段に於て主觀的宗教成立した以上は、客觀的宗教と主觀的宗教と成立した以上は、最早や他宗教成立の餘地が無い樣に思はれる、ところが決してさうでありません、今迄の宗教が其内容に於て一の缺點も無いものならば兎も角であるが、既成の宗教は決して缺點がないとは申されませぬ、吾人が人類の性質上何人も宗教心を有する以上は何誰も必ず一の宗教を信奉しなくてはなりません、信奉するのが自然の道理であります、然るに實際は何うでありますか、無宗教の人が中々多くあります、これは何う云ふ譯かと云ふに既成の宗教に於て缺點があるからであります、して見れば此缺點を改良すると云ふのも今後の宗教に於て希望しなければなりませぬ、それで今後の宗教は如何なる宗教であるかと云へば、私の考では客觀的宗教を改良し主觀的宗教をも改良しさうして之を統一したものでなければならぬと思ひます、第一段に於ては外界の事物を崇拜し、第二段に於ては内界に注意したから、第三段に於ては内外界に共通するところの偉力を信ずと云ふ處に歸着すべきものと思います、即ち統一的宗教にして哲學上の言葉で云へば一元的二面論であります、さうしてこれがやがて吾人の理想的宗教になるのであります、依之觀之現今の宗教は發達の中途にあるものにして前途大に有望なりと謂はねばなりませぬ。

宗教は迷信にあらず

現代思想の誤謬

第四章　宗教と迷信

世人殊に教育ある者は宗教と云へば直に迷信と思ふが、こは大なる誤りであります、無論現時の宗教は實際迷信的分子を含んで居るから宗教と云へば迷信と思ふも無理ならぬ次第ではあるが併し眞正の宗教は決して迷信では無いのであります。

翻つて考ふるに現時の如き物質萬能時代に在つて其心は物質的智識を以て滿たされ科學を以て説明し得ざるものは眞理に非ずと云ふ樣な過つた考が先天的に心の中に染み込んで居る以上は右の如く考ふるも無理ならぬ次第であります、併しいくら先天的に入つて居つても誤りは誤りとして正さなくてはなりませぬ、吾々精神を研究して居る側から申せば現今の人の心は餘りに物質主義、科學萬能主義に傾き過ぎてる樣に思はれます、少しは哲學や心理學の如き抽象的學問をも研究して貰ひたいと思ひます。

宗教は迷信に陷り易し

そこで宗教と云ふもの元と信仰より成り立つもので あつて其又信仰なるものは主として智情意の中の情が最要素を占めて居るを以て如何しても宗教と云ふものは迷信に陷り易いのであります、迷信に陷り易いから宗教は迷信だとは申されませぬ、又宗教を信じたからと云ふて智力の發達して居る人は決して迷信には陷りませぬ、よしんば迷信に陷つたとしてもそれで以て安心立命が出來たとか大勇猛心が振ひ起つたとかすれば、換言すれば心的改良が出來ればそれで以て

迷信に關する疑問

宗教の目的は達せられたのでありまして、吾人は何等の損失をも來さないのであります現時の宗教が直に吾人の理想的宗教として信ずべきものなるや否やは暫らく措き、兎も角宗教と云ふものは吾人に取て必要であると云ふことは斷言するを憚りませぬ、若し讀者諸君の中に宗教の嫌ひな人があつたなら嫌ひで良いとして宗教は信じないでも良いが後章の信仰と云ふ事は是非熟讀して戴きたい此の信仰と云ふことは宗教とは別物であります。

それから此迷信と云ふことは定義を下すことが實は甚だ困難でありますが、吾人が見て以て迷信となすことでも、其當人に取つては或は迷信でないかも知れず、又或場合には吾人の見て以て迷信となすことが實は却つて誤謬であるかも知れない例へば或神社より家内安全無病息災の御札を受けたとする、教育ある者より見れば實に馬鹿げた話である、慥に迷信に爲すべきものである、然るに受けた當人に取て見ると、これで以て心的改良が出來て安心立命が出來る、至大至剛の力が出る、確固たる信念を得て精神が確かりする、さうして身體が丈夫になり家業にも精が出る、外物の屬に心を支配されると云ふことがなくなる、從て病氣にも罹らないとすれは家内安全無病息災であつて開運も出來お札の御利益がある譯になる、して見ると、かう云ふのは一概に迷信とばかりは言はれないのである、ところが反對者はかう云かも知れん、そんなことは合理上あり得べからざることで一の假定說若くは想像說に過

ぎないと、此處が精神論者と物質論者と別るる處である、形而上の智識のない者から見れば何うしても、さう判斷するのが至當である、勿論吾人精神論者といへども御札を受けた者が皆が皆まで萬人が萬人同一御利益を受けるとは信じない、けれども決してないことはない現に吾人の知つて居るものが幾らもある、然らば御札其物に御利益があると云ふに決してさうではない此處かむづかしい處であります、耶蘇教の本を見ても神道の書を見ても佛教の經文を見ても決して耶蘇の像其物に御利益がある、天國と云ふ處は目に見ゆる處であるとか、御經其物に御利益があると云ふことは書いてない、例へば今日非常に流行つて居る彼の成田の御不動さんにした處が五錢の御札もあれば十錢の

御札もある一圓の御札もある、そこで不動經を見ると御札に御利益があると云ことは書いてない、まして十錢の御札と一圓の御札とは御利益が違ふなどと云ことは尚更書てない、どんな事が書いてあるかと云ふと、こう云ふことが書てある、不動明王は無相の法身にして虛空と同體なれば其住所なし但衆生心想の中に住し給ふ衆生の意想各々不同なれば衆生の意に隨つて利益を作し給ふとある、決して御經其物に御利益があると云ふことも書いてなければ御札に御利益があること云ふことも書いてないのでありますそれであるから同じ御札を受れば同じ御利益があるとは申されませぬ何となれば人々の心が異るからであります、不動明王は各人の心の中に住んで居るのでありますから

精神作用

其人の精神作用によつて御利益が違つて來ます、御利益は違つて來ますが御利益がないとは申されませぬ以上述べ來つたところが、宗教と信仰と御利益と神佛天と宇宙の靈力と精神作用との互に相關連して居る處でなか〳〵むづかしい處であります、物質主義の御方の解釋に苦しむ處であらうと思はれます、尙後の神佛天とは何ぞやと云ふ章を御覽を願ひたい。

眞の迷信

前に擧げた例は迷信ではありませんが若しも其御札を受けた者が、もうこれで大丈夫だ御札を受けたからして明日からは働かなくてもよい、遊んで酒許り飲んで居つても金はどん〳〵湧いて來る、と云ふ樣であつたならばそは慥に迷信である、又十錢の御札よりも五十錢の方が御利益があると思ふも慥に迷信であります。

迷信ならざる信仰

又寒中斷食して冷水浴を行る、或人から見たら慥に迷信と云ふに相違ない、ところが其當人に取つては中々迷信どころでない非常に御利益がある、現に私などは今年の一月の寒中に斷食して冷水浴を行つた、ところが親からは無鐵砲なことを行ると云ふて叱られ兄弟からは迷信だと云ふて笑はれた、親兄弟でさへもさうであるから他人は況して笑つたに相違ない、夫も普通の笑でなく嘲り笑つたに相違ない、醫學者に言はせたら非衞生的だと云ふに相違ない、ところが其結果は實に以外であります、成る程一時は衰弱もし痩せもしました、併し肉は大に締りました斷食を止めてから一週間目には心身共に元に復し十日目には斷食以前より

も目方が增加ました、それから此水行斷食に就いて何うしても判斷のつかぬことがあります、それは斷食をする前に私は旅行先に於て心身の健康上種々無理なことをなし感冒に罹つて居つた、それが水行斷食をして居る中に何時か治つて仕舞つた、これらは何と解釋をするだらうか、まだ〳〵此斷食に就いては色々常識的判斷の付かぬこと物質的智識が說明の出來ないことがありますがそれらを書き始めると非常に長くなるから此斷食法に關する詳しいことは何れ稿を改めて書く積りであります。

右の樣な譯で私自身は決して迷信とは思へません、寧ろこれなどは迷信と云ふ方が過つて居るのであります尙私は事情の許す限り今後は毎年一月には實行す

る積りであります。

以上述べた樣な譯で迷信と云ふことは人々によつて異るのであります、故に普汎的に迷信の定義を與ふることは到底不可能の事に屬するのであります、只常識的に云へば發達の初期に於ける宗敎は迷信的分子を含むこと多く無敎育の者は慨して迷信者多しと謂ふことが出來るのであります。

第五章　既成宗敎及び宗敎家に就いて

既成宗敎を世界に涉つて廣く云ふときは澤山ありますが今は我國に行はれて居る神道と佛敎と耶蘇敎とを擧げて聊か愚見を述べて見やうと思ひます、或は神道は我國固有の道にして宗敎では無いと云ふ御意見

祭政一致

政府神道を保護す

の方もありませうが、現今に於ては之を廣く解釋して矢張り宗教と見て良からうと思ひます。

古代に於ける神道、祭政一致の世に於ける神道は政治と同一に見られ皇室と政府と一處であつた時代は神道は非常に重いものでありました、現今に在つても決して輕んじては居りません、現今は名目こそ祭政一致の世ではありませんけれども、其實は矢張り祭政一致でありまして、畏れ多くも上皇室に於かせられては四季折々に御祭祀あり、神社に就いては官より特に資格を定められ神官を置かれ祭祀の日を定め其當日は官衙公衙一般に休暇を與へられ、また各地方には氏神なるもの祀られて小學校の兒童に至るまで必ず參拜する樣になつて居る、これを以て見ても朝廷が如何に敬神

神の意義

神官に人物なし

の念の養成に盡力して居らるゝかが分ります。

此の皇室並に政府に於て祀らるゝ處の神なるものは皇室並に吾々人民の祖先若くは過去に於て我日本國のために盡された人々の靈でありますから之を尊敬し之を崇拜すると云ふことは誰一人反對する者は無からうと思ひます、若し反對する者があつたならばそんな者は國賊と云ふて差支ありません。佛教徒でも耶蘇教徒でもこれには反對出來ませぬ、如何に信教自由の世とは云ひながら例へ信教の自由は憲法の保障する處であつても國家に害あるものは許す譯には參りませぬ。

斯の如く我國古來よりある處の神道に就いては朝廷に於て手厚き保護あるにも拘はらず神官其人には何

うも人物か無い樣に思はれるが、こは私の僻目でありませうか、も少し有爲の人物、活動的の人間が欲しいのであります。御幣束を切る、御札を配る、御神樂をあげる、御祝詞を奏す、此等のことだけでは何だか物足らぬ心地がする、古往今來神官と云ふ者は地方に於る門閥家でもあり勢力家でもあり中々地方人の尊信は厚いのである、此勢力此人望を善用して地方人心の開拓培養をして欲いのであります、少し極言かは知らぬが今日の神官にして眞に神の本體を認識せし者果して幾人あるか宇宙の大靈に接觸せし者果して幾人あるか、何うも心細い感じがします、古事記や日本記の講釋が出來たり、祭文を作ることが出來たりすれば學者だとは云はれやうが眞の神官とは謂はれない此點に就いて

政府の保護厚きに失す

は昔からある處の神道、政府の保護を受て居る處の神道よりも後世に起つた神道の方が人物がある樣に思はれる。

此の人物の出ないと云ふ理由は或は古來朝廷の保護厚きに失するが爲めではあるまいか否か、私は形式的の神官に非ずして宇宙の大靈と同化し神の本體を認識し人心を開拓培養し得る所の實力ある精神的神官の出でんことを心底より希望して止まないのであります。若し今の有樣で過ぎ去つたならば神の形丈けは殘つて居つても精神は空になり、人心は悉く他宗教の支配する處になるは火を睹るより明なる事實であります、神官諸君以て如何となす。

神道の中でも古來よりある處の本神道、官立の神道よ

私立の神道に人物あり

佛教に人物多し

りも後世になつて起つた所の私設の神道、政府の保護も何もなき處の神道例へば大社教とか扶桑教とか黒住教とか蓮門教とか天理教とか金光教とか、一時は神道に非ずして邪教なりと迄云はれたものゝ方が却つて人心を支配しつゝある」此等は大に注目すべきことであらうと思ひます。

佛教は外來宗教ではありますが、古來名僧智識多く出でゝ神道を我藥籠中のものとなし能く我國情に同化して布教に從事しましたから遂に今日の如き盛大を來したのであります、諸君は既に御承知でありませうが我國の歴史を調べて見ますと佛教の方では中々人物が出で居ります、さうして能く人心の開拓培養をして居ります、神道の方で佛教を自分の方に入るると云ふ

神佛混淆

事はありませんけれども、佛教の方では何時も神道を我物にして居ります、行基の神佛同體說空海の本地垂迹說などは中々能く考へたものです、これが基となつたのではありますが後には神名に佛名を附して南無八幡大菩薩と云ひ或は日光權現と云ふ。

祠の如きも始めは白木造りであつたものが後には赤く塗る樣になつて仕舞つた、神社の前で御經を讀み稱して法樂と云ふ神官誰一人反對する者もない、何と情ないではありませんか、明治維新になつて政府の力を以て神佛混淆を禁じましたけれども事實は矢つ張り存して居ります、其中でも殊に著しいのはお不動さんです、成田山新勝寺と云ふお寺は眞言宗の御寺であるけれども、其祭つて在る不動尊は中々盛なもので、本山

最も多く人心を支配せる佛教

佛教の腐敗

のみにて日々御札の出るのが何千枚か分らない、之に全國のお分れとか御移しとか、云ふ支社末社から出るのを合せたなら非常のものだ。

單に佛教と云へば一つの宗教の樣であるけれども、其實中々分派が多い、けれども最も多く人心を支配して居るのは、眞言宗と眞宗それに日蓮宗位の者であらう、ところで此等の宗派は無論のこと他の宗派に於ても改良する點は無いでありませうか、金額の多少に依て御札に大小が在つたり御剃刀頂戴か出來たり出來なかつたりすると云ふのは、如何云ふ譯でせうか、元來御利益と云ふものは金錢の多少によるものでありませうか、又葬式の時に讀經するにしても改名を頂くにしても金錢の多少に關係すると云ふに至つては何うも

活動的佛教

佛教の改良

改良の餘地があるやうに思はれます。

私は佛教の中で眞言宗と日蓮宗と禪宗とを好みます、それは此等の宗派を唱へ出した人々に就いて其人物の偉いのと、それから此等の宗旨は何れも精神的で活潑で大勇猛心がある樣に思はれるからであります、元來佛教は厭世的のものでありますけれども此等の宗旨は世間的、社會的であります何うしても今後の宗教は從來の如く出世間的ではいけません。

若しも佛教なるものが葬式の時に御經を讀んで死者に引導を渡すのみが役目だとすれば何も言ふ必要はないが佛教の目的は決してそんな卑近狹隘のものでは無からうと思ふ、さればと云ふて不動尊の如く御札を授け眞宗の如く御剃刀を授けるのが佛教の目的と

も云はれません、人智は何時迄も固定しては居りませぬ常に進歩しつゝあるのであります昨日まで活佛と崇められた僧侶もいつ何時尊信を失ふかも知れませぬ、私は昔の名僧が布教の傍ら諸種の會社的事業を起したのを思ふて敬慕の念に堪えません、佛教には古來高僧に乏しくありませぬ希くは僧侶諸君各自傳來の別を捨てゝ新佛教を創立し主義目的を定め以て其向上發展を計られよ。

耶蘇教

耶蘇教は佛教に比すれば我國情に同化し難き點あると其傳來日尚淺いのとを以て前二宗に比すれば信者の數未だ多くはありません、それに現今の如く幾多の小派か分立して居ると云ふことは人心集攬の上に於て不得策だらうと思ひます若し茲に偉人出でゝ統合をはかり内容を改良して日本的耶蘇教となしたならば多年ならずして優に一大宗教を樹立することが出來ると思ひます、同じ耶蘇教でありながら他派に屬するものは其内容を知らない宣教師があるやうでは、布教の前途尚遼遠であります、又宣教師の中には小學校の兒童が神社に參拜するのに反對して居る者がある、と云ふ話であるが、果して信ならば以ての外のことである、そんなことでは所詮我國情に同化することは出來ぬ寧ろ國外に放逐すべきものである、敢て三省せられんことを希望します。

何故に理想的宗教は起るか

第六章　理想的宗教

今迄の宗教が例へ良い點があるにもせよ若しも缺點

理想的宗教

があるとすれば吾人が理想的宗教を要求するは自然の勢であります、さて其理想的宗教はこれまでである處の宗教全體神道をも佛教をも耶蘇教をも皆集めて一纒めとした意味に於ける統一的宗教を樹てたものであらうか、或はまた各宗の良い點を取つて神道からも佛教からも取る、耶蘇教からも採ると云ふ樣にした意味の統一的宗教にしたものだらうか、それとも又現今の如く各宗教とも非常に多數の小派に分れて居ると云ふことは面白くないことであるから、神道は神道だけで一纒めにし、佛教は佛教だけで一纒めにし、さうして各派の長所をとり缺點を捨てゝ、新神道、新佛教、新耶蘇教とすると云ふ樣な統一的宗教にしたものだらうか、それから又現在の宗教の中で比較的理想に近

いものがあるとすれば、其宗教を主として之を改良し、さうして他宗教の良い所を採り更に理想的のものを加味したところの統一的宗教を立てたものであらうか、同じく名は統一的であつても其種類は中々多いのであります、之を表に作つて見ると次の如くなります、

甲、全部改造主義

一、全然既成の宗教を認めず別に理想的新宗教を樹つること

二、既成の宗教を集めて一纒めとすること

三、既成宗教の各長所を採りて之を一纒めとすること

四、前記の如く一纒めにしたるものに更に理想的のものを加味すること

乙、一部改造主義

一、現在の宗教に就いて比較的理想に近きものを採用あること

二、前記の如くして採用したるものに他宗教の長所を加味すること

三、更に理想的のものを加味すること

丙、各宗承認主義

一、既成の各宗教各分派を承認し其長所を助長して短所を捨て更に理想的のものを加味して之が改良を計ること

二、一宗一派となすこと

一、各宗教の分派を廢し之を集めて一纒めとすること

ろ、各分派の長所を採りて之を一纒めとすること

ば、前記のものに更に理想的のものを加味すること

に、各分派の中理想的に近きものを採用して一宗の主義とすること

ほ、前記のものに他分派の長所を採ること

へ、前記のものに更に理想的のものを加味すること

まーざつと右の樣なものでありますが何の主義にしても偉大なる人物の出顯を必要とします殊に甲の全部改造主義の中の第一項の如きは丁度波羅門教のあつた所に佛教を創め猶太教のあつた所に耶蘇教を唱

各宗とも其源は一なり

べる樣な譯でありますから、矢張り釋迦や耶蘇の如き偉大なる人物でなくてはなりませぬ。

既成の宗教を一纒めにすると云ふことは困難ではあるけれども絶對に出來ないと云ふことはありませぬ、何となれば各宗教とも其末は異つて居るけれども根本に遡れば皆一つ教義であります、布教上只其方便を異にするのみであつて源は皆一つ處から出て居るのでありますそれですから絶對的に出來ないことはありませぬ。

甲乙丙三つの主義の中で比較的實行し易いのは丙の各宗承認主義でありませう、其中でも第一項が殊に容易いだらうと思ひます、併し理想上より云へば第一項よりも第二項の「へ」を成効させたいと思ひます。

理想的宗教と云ふことは獨り吾々ばかりでなく宗教家も宗教學者も唱へて居る處であつて見ると何うして現在の宗教では新世紀の人間には適應しないと云ふことが明かでありますそれならば其理想的とは如何なる内容を含めるものであるかと云ふことに就ては未だ十分なる具體的の案はないやうであります、そこへ吾々が持ち出すと云ふことは僭越の樣ではありますが併し自分は既に或る偉大なる者の力(宇宙の靈力)を認めたる程度にまで達せるを以に信念に於ては宗教家や宗教學者に對して決して劣らぬ積りであります。理想的の宗教を立つるには先づ宗教の定義より決めて掛らなくてはなりません、古來宗教の定義を下したものは幾らもありますが皆滿足のものはありません

宗教の定義

比較的良いと思つたのは次の定義であります。

「宗教とは神と人とを結び合すものなり」

宗教は慥に神と人とを結び合すものには相違ない、神の如何なるものであるかを知つて居るものにはそれで良いが、知らない者には通じない、又神と云ふ言葉を使用すると神道や耶蘇教には通じるけれども佛教には通じない、然らば如何なる定義を下したら宜からうか、私は次の如く決めたいと思ひます。

「宗教とは人をして宇宙の大靈(或は絶對的偉力)に同化せしむるを目的とするものなり」

これならば神道にも佛教にも耶蘇教にも通じます、さうして何れの宗教からも異議の申立て樣がありませぬ、神道の神も、佛教の如來も、耶蘇教の神も名こそ異な

れ皆宇宙の大靈に同化して、これに下した名義に過ぎないのであります、宇宙の大靈に同化すると云ふことは宗教最終の目的でこれが出來れば宗教の目的は達せられたと云ふてもよいのであります、何となれば宇宙の大靈に同化が出來れば如何なる内容の宗教にても其主義を實行することが出來るからであります同化する迄に至らなくても大靈のあることを認めらせた丈けにても宜しいのであります、既に宗教の定義が決まれば今度は理想的宗教の主義内容を決めなくてはなりませぬ、で今後の宗教は從來の宗教の樣に一方に偏して居るのは良くありませぬ、そこで私は次の如く定めたいと思ひます。

一、靈力を認めしむること

二、安心立命を得しむること
三、大勇猛心を養成し得ること
四、道德的觀念を養成し得ること
五、世間的ならしむること
六、進歩的ならしむること
宇宙の大靈に同化せしむること

靈力と云ふことは宗教の性命でありますから、これは何うしても除くことは出來ませぬ、信者が安心立命が出來なかつたならば宗教の價値は無くなりますから、これも必要です、大勇猛心を養成しなくては人間が意氣地が無くなり役に立ちませぬ神經衰弱などに罹るのは此勇猛心がないからであります、道德的觀念がなくては人間として社會に立て往く譯には、まへりませぬ此觀念の中には國家的觀念を含むこと勿論であります、世間的でなくては世人から嫌はれます、從來の佛教の樣に出世間的であつたなら世人から嫌れるのみならず厭世的、悲觀的になります、進歩的で無かつたなら文明は退歩して仕舞ひます、常に宇宙の大靈を望みつゝ此等の心力を養成したならば遂に最終の目的を達することが出來ます、これでこそ教育ある者も信仰することが出來ると思ひます。

第七章　非宗教的信仰

前章に述べた樣な宗教が出來れば結構な事であるが、それはおいそらと口で云ふ樣に早くは出來ない、出來ないとすれば何うすれば良いか、此儘に打ち捨て置いて時機の到來を待たうか、其時機が早く到來すればよ

過渡時代

いが中々急には到來しそうもない、そうかと云ふて現今の樣な迷信的分子を含んだ宗教では、教育ある者は信仰する氣になれない、信仰する氣になれないと云ふて此儘に打ち捨て置いたならば此の世の中は何うなるだらうか、熟ら々々現時に於ける社會の風潮を觀察するに、物質時代より精神時代に移らんとする過渡時代に屬するとは言ひながら、何うも人々が輕佻浮薄に流れ唯是れ物質を重んじ名利に趨る傾きがある樣に思はれる、これは人々に確固たる信念がないからであります、必ずしも宗教を信じないでもよろしい此確固たる信念がありさへすれば結果は宗教を信じたと同じであります。

教育者の信念

未來の國民を養成する大責任ある教育者にすら此信念を有する者が極めて尠ない、從て尊重に價する人格を有する者が少ないのであります、これでは學校騷動の起るも無理がないのであります、學者も亦然りで國民の先覺者たるべき學者にあつても確固たる信念所謂不動の心と云ふものがない爲めに黨同伐異の風が盛に行はれ動もすれば己れの專攻學以外には學問なしと云ふが如き有樣を呈することがあります、己れの專攻學に忠實なるは賞すべきも往々にして他學科の領分にまで喙を容れ爲めに眞理の發見を誤まらしむることが尠なくない、これ自己に確信なきために學問の奴隷となり學問の擒となつたのであります、從つて眼界狹く大度量に乏しくなり己れの有する狹き智識を以て凡べてのものを解釋せんとするに至るのであ

學者の信念

著者の信念

ります、學者の說に對しては國民は殆んど盲從的に崇拜するのでありますから學者たる者は餘程愼重の態度を取つて貰はなくてはなりませぬ、常に「予は國民の先覺者なり」と云ふ自信を持つて戴きたいのであります。

さて、學者、敎育家幷に大多數の國民諸君。諸君の如き敎育ある方々に對して吾々風情が彼れ是れ申すは甚だ失禮ではありますけれども、自分は此信念と云ふことに就いて聊か信ずる處あるを以て申し上げたいと思ふのであります、此信念と云ふことは必ずしも宗敎に依らなければ得られないと云ふことはありませぬ、私は宗敎家ではありませぬ、それでも信念を得た積りであります。

宗敎家の誤りたる經驗

野蠻未開の民若くは無敎育の人間は智情意の中、情が最も能く發達して居る故に此等に對する信仰は迷信的で良い、然るに敎育を受けた人間は智情意共に平均に發達せるか若くは智が比較的によく發達して居る故に其信仰も之に適應するものでなくてはなりませぬ。

宗敎家、若くは宗敎信者は自己の經驗上よりして、信仰は宗敎に依らなければ得られない、其宗敎を信ずるには理性に訴へては駄目である是も非もなく只濫りに信ぜよ宗敎は智で以て解釋すべきものでないと、斯ふ云ふことを言ふ、私は私の經驗よりして信仰は宗敎に依らなくても得られる、又宗敎は理性に訴へても得られると思ふ、今日敎育ある者に比較的無宗敎者の多い

信仰を得るの徑路

は一は宗教者が誤つた考を持つ居るからであるのであります、勿論信仰とか宗教とか云ふものは情が主となるものではありますけれども智も意も必要であります。

さて信仰を得るには、人の話を聞いて見ても又自分の經驗上から考へて見ても、何うしても自分よりも偉大なる力を有する或者があると云ふことを悟るのが必要であります、人生の目的は何であるかと云ふことを研究するも必要でありますが何うも廻り遠い、偉人の修養談を聞くことも惡くはないが中々効果が表はれない、然らば其自分より偉大なる力を有する或者があることを認めるには何うすれば良いか、それには先づ神とか佛とか天とか云ふものは何んなものであるか、

有形のものか無形のものか、實在的のものか人格的のものか此問題から決めて掛らなくてはなりませぬ。

第八章　神佛天とは何ぞ

我神道に於て神と云ひ、佛教に於て佛と云ひ、儒教に於て天と呼び、基督教にありて神と稱するものは抑何であらうか、これ等は皆同一のものであらうか異るものであらうか抽象的のものであらうか具體的のものであらうか。

私の經驗によれば皆同一のものであつて、始め之を唱へ出した者が其時の感想によつて名けたものと思はれます、さうして其人の觀によつて無ともなり有ともなり實在ともなり人格ともなるのであります畢竟同

一のものに異名を附したるに過ぎないのであります。それは何うして分るかと云ふに經典教義の研究と宇宙の靈力を認めることとに依つて分ります。

經典教義の研究

私は最初不動經から研究しましたから不動經に就いて申しますが不動經に何んなことか書いて在るかと云ふに次の樣なことが書いてあります、曰く。

不動經

不動明王は無相の法身にして虛空と同體なれば其住所なし但衆生心想の中に住し給ふ云云

無相の法身であるから實體の無いと云ふことは明でありますす虛空は宇宙であります、宇宙と同體と云ふのは宇宙も不動王も同じく靈力であると云ふこと、住所なしと云ふのは宇宙の靈力は宇宙に充滿して居る故に何れか住所ならざるなしであります、其靈力即ちエネルギーが吾人の身中に入れば精神となります、其精神を茲に不動明王と云ふて居るのであります、かるが故に不動明王は吾人の心想の中に住し給ふと云ふのであります。

華嚴經

又華嚴經に「心と佛と衆生とは差別なし」と云ふことがありますが、これも宇宙の大精神と佛と吾人の心とは同一であると云ふのであります。

禪宗

又禪宗の僧侶は釋尊が華嚴經を說き始めて以來四十九年一切經の最後の阿彌陀經を說き終つて眞に悟りを得たものは一人もなかつた、其時釋尊は一枝の花を手にして正面に差出した、是を見て莞爾したのが阿難尊者ぢや於是乎敎外別傳拈華微笑の禪宗があるのじや、六百卷の一切經の精神は唯一枝の花の裡に發見さ

佛教全部の共通教義

るゝのじや眞如は一輪の花片にも宿て居ると、云ふて居るが、實際さうである、一切經の精神は即ち佛の精神、佛の精神は即宇宙の精神であります宇宙の靈力であります、彼の美しい花も畢竟宇宙の靈力の作用に依つて出來たのであります、豈獨り花のみならんや萬有皆然りであります、釋尊が花の代りに石を出しても土を出しても同じことであります。

全體佛教には其全部を通して共通の教義があります、それは、吾々人間には佛性と云ふものがある、これは宇宙の眞理と一致すべきものであるが、人間は肉體を有して居るから私慾がある私慾と佛性とは其働きの上に於て方向が違ふ此私慾が無明煩腦となつて益々宇宙の眞理に遠かる、そこで迷の衆生となる、故に此迷ひ

即無明煩腦を退治すれば宇宙の眞理と一致し安心立命が出來る生きながら涅槃に入ることが出來ると云ふのである、宇宙の眞理は即ち宇宙の靈力であります。それから神道の方で六根清淨太祓に次の如くあります。

我身は六根清淨なるが故に五臟の神君安寧なり、五臟の神君安寧なるが故に天地の神と同體なり、天地の神と同體なるが故に萬物の靈と同體なり云云

天地の神と云ふも萬物の靈と云ふも一つもので宇宙の靈力を指したのであります、六根は生死流轉の迷を生ずるの因となるもの即ち眼耳鼻舌身意六つを云ふ、此六根の妄執を斷すれば宇宙の靈と一致するが故に安心立命が出來ると云ふのであります。

次に耶蘇教の方を調べて見まするに矢張り宇宙の靈力を認めて居ります。

基督正教會に信經十二ケ條なるものがある其第一條に、「我は一の神父全能者天と地と、見ゆると見えざる萬物を造りし主を信ず」とある、萬物を造りし神――造化の神――全能者即ち宇宙の靈力である。

また耶蘇が「爾若し芥子の如き信あらば此山に命して彼處に移れと云はゞ必ず成らん」と言はれたるも此信こそ宇宙の大靈に接觸したる信念なり至大至剛の大確信なり宇宙のエネルギーに同化したる時の信であります。

また「爾曹は神の聖殿に非ずや」と云ふも同一意味にして前に擧げた佛教の教義と毫も違つた處はありませぬ、基督教徒は、此偉大なる靈能――神の靈能が自己の衷心に宿り居るを信ずるのが基督教の信仰である此處に無限のインスピレーションが發して來るのである

と云ふて居るけれども、こは佛教でも神道でも乃至儒教でも同じ事である、決して基督教のみの專有物ではありません、また同じなのが當然であつて若し異つて居つたら、そは宗教ではありません。

それから又人間の心靈は身體を離れて無限に大なるもの又至微至妙のものであると云ふこと、これも吾人の精神と宇宙の大靈とは同體のものであることを說明して居るのであります。

或る耶蘇教徒は「淺薄な限りある人の智識で何うして限りなき宇宙間の諸現象を悉く解釋することが出來

やうか、人間の智識で解釋の出來ぬ現象は虛僞だと云ふは甚しい誤解である、人間は只不完全なる未徹底な科學の力で以て宇宙萬有の奧底に潛める無限の事實まで知り盡さうとするは僭越の沙汰である、宇宙の神秘は研究すればする程其深さを增して來る、淺薄な科學の力で宇宙の神秘を悉く闡明しやうとするは恰も細い管で廣大無邊の空を望むやうなものである」と云ふて居られるが佛敎家の意見も同樣である、宗敎家ならぬ著者の意見も同樣であります。

孟子曰く、我能く浩然の氣を養ふ、敢て問ふ浩然の氣とは何ぞ曰く、言ひ難し其氣たるや至大至剛にして天地の間に塞る。

文天祥の歌に曰く、天地に正氣あり雜然として流形に賦す下は則ち河嶽となり上は則ち日星となる人に於ては浩然と曰ひ沛乎として蒼溟に塞る。

藤田東湖の正氣の歌に曰く、天地正大の氣粹然として神州に鍾まる秀でゝは不二の嶽と爲り巍々として千秋に聳ゆ注いては大瀛の水と爲り洋々として八洲を環る。

浩然の氣と云ふも正氣と云ふも、正大の氣と云ふも皆これ宇宙の大靈をさしたるもので、それが河の本體ともなり山の本體ともなり花の本體ともなり人の精神ともなるのであります。

陽氣の發する所金石亦透る精神一到何事か成らざらんと云ふ格言がありますが、此説明は宇宙の大靈を認めた者でなければ幾ら漢學者でも本當の説明は出來

ませぬ。

易に天之道を立てゝ陰と曰ひ陽と云ふ。

孟子に若子業を創め統を垂る繼ぐべきなり夫の成功の如きは則ち天なり。

論語に顏淵死す子曰く噫天予を喪ふ。

論語に天德を我に生ず桓魋夫れ我を如何せん。

孟子に其心を盡す者は其性を知る其性を知る者は則ち天を知る。

此處に天と云ふのは、皆偉大なる自然の力即ち宇宙の靈力を認めて之を畏敬したる時の言葉であります。

以上記述したる處によつて神と云ふも佛と云ふもゴツトと云ふも天と云ふも皆偉大なる自然力即ち宇宙の靈力を認めこれに附けたる名に過ぎないと云ふこ

とがお分りになつたらうと思ひます。

併しこれ丈けではまだ足りませぬ、更に自分で實驗して見て、さうして宇宙の靈力なるものを認めて始めて成る程と合點するのであります納得するのであります然らば其方法は如何と云ふのが次に起る問題であります。

そこで我國に昔から行はれて居る法を擧げて見ますと云ふと次の如くであります。

一、水行斷食法

これは冷水浴と斷食とを一處に行るのです。

二、坐禪法

これは禪宗で行つて居る法です。

三、數息觀

これは前の坐禪法に成功しない人が行るのです。

四、調息術

これは近頃二木博士が腹式呼吸法と改名しました。

以上の四法は自力で以て靈力を認める法であります

が他力で以て認めるのが例の神佛祈願法であります。

それから近頃始まつたのが二つあります。

一、岡田式靜座呼吸法

二、藤田式息心調和法

私はまた岡田君にも藤田君にも會はないから兩君の意の在る處が分りませんし。其効果に就いても不明でありますが、兩法とも決して功のないことはなからうと思ひます只行つた人の話によると割合に成功する人は少ないと言ふ、尤もこれ等の法は兩君とも單に健

康と云ふに止つて私の言ふ宇宙の大靈に接すると云ふ樣な高遠な意味でないかも知れない然し私の考では行り方によつては出來ると思ふ。

それに兩君の法は行る人が先生の許、若くは會に出席しなくては甘く往かぬと云ふ話である、家で單獨で行つては出來ないさうである。

そこで私の行つた方法をお勸めする。私のは二つある、一つは水行斷食法にして一つは精神呼吸法であります。

兩法行れば良いか一方でも宜しい、兩法を併せ行へば大概一週間位で宇宙の靈力を認めることが出來る、其時の心の狀態は有に非ず無に非ず何等の慾望も何等の雜念も起らず我精神即宇宙精神となる頭腦は玲瓏

神佛天とは何ぞ

玉の如く何物もなく眞に仙境に遊ぶか如き氣がする、人此境に入ればやかて悟りの第一歩に入つたのであらうと思ひます、此時の心の狀態を心理學で説明すれば顯在精神滅却して潜在精神の顯はれ出でんとした場合であらうと思ひます。

私は先つ第一に現時の宗教家にお勸めする苟も宗教家を以て任ずる以上は此の水行斷食法と精神呼吸法とを信仰して行つて頂きたい、さうして宇宙の大靈に同化して戴きたい、そこで始めて宗教家たるの資格が出來ると思ふ。

水行斷食法と精神呼吸法とを信仰せよ

第二には教育家諸君に熟望す、諸君はこれに依て自己の天職を自覺されんことを希望します、未來の國民を養成する大責任あると云ふことを自覺されんことを希望します。

第三には國民全體に希望します、諸君は此の水行斷食法と精神呼吸法とを信仰せられんことを希望します、若し水行斷食が困難なれば普通の斷食でも宜しい、斷食が困難なれば精神呼吸法だけでも宜しい、呼吸法を行つて居る中には自然に斷食法も行つて見る氣になります。

凡べて如何なる良法でも信仰して行らなければ無効です信仰して行つて御覽なさい、如何に精神作用の偉大なるかを自覺するに至ります（水行斷食法及精神呼吸法並に前記の坐禪以下の諸法は別に稿を改めて公にします）

第九章　信仰ある者となき者との優劣

信仰なき人

これを從來の經驗に徵し又自己の實驗に觀るに、信仰ある者と、なき者とは、世に處する上に於て非常の相違があります、信仰なき者は空中の樓閣の如く水萍の如く舵なき船の如きもので、根底なく方針なく更に歸着する處がありませぬ、ところが信仰ある者は「富貴も淫する能はず、貧賤も移す能はず威武も屈する能はず此れ之を大丈夫と謂ふ」と云ふ境に達することも出來れば、また富貴に素して富貴を行ひ貧賤に素して貧賤を行ひ患難に素して患難を行ふと云ふ境に立つことも出來る、其根底に於て心の奥底に於て確かりした處がある所謂大確信がある、故に其行動が明瞭で矛盾することがなく法律にも道德にも更に抵觸する處がない、畢竟それは宇宙の大精神に合體するからである、宇宙の大精神に合體すれば安心立命が出來る、逆境に陷つても敢て悲觀する樣なことはない、常に將來の希望と幸福とが輝いて居る、病氣にもならなければ厭世的にもならない理性と理想とが全心を支配して居るから、性慾に耽ると云ふこともなければ不德のことを仕やうと云ふ考も起らない、是に於て初めて眞の人間となることが出來るのである。

大確信

私は必ずしも諸君に向つて宗教を信ぜよとは申しませぬ、何となれば現今に於ては諸君の如く智情意の發達した人間の信ずべき宗教は見當らないからであります、宗教は信仰に依て起るべきものでありますけれども、信仰は必ずしも宗教ではありませぬ、或宗教家が信仰は必ず宗教に依て起るものであると言はれたの

信仰の功果

は誤つて居ります。

諸君は先づ精神修養の第一着手として信念を得る手段の第一歩として精神呼吸法を信仰せられんことを希望します。諸君よ諸君、信念なき者は此の世に於ける劣敗者であることを私は斷言致します。

第十章　信仰と教育

谷本博士は嘗て其著宗教と教育との關係に於て「信仰ある眞の宗教家をして教育者たらしめたい」と申されたことがありましたが、私は却て「信仰ある教育者をして眞の教育家たらしめたい」と思ひます、外國はいざ知らず、我國に於ては宗教家をして教育に預らしむることは餘程考へ物であらうと思ひます、必ず教育上種々の弊害が起るに相違ありません、宗教を學校に入れると云ふことは私は反對であるけれども、教育者も被教育者も信仰を持つて頂きたいと思ふ、宗教に依らざる信仰を有て頂きたいのです、

尙博士は同書に「信仰により氣品を作り人格を高め之を根本として尙之に加ふるに學問と世才とを以てしたならば人を感化し人を教育することは實に容易いのである」と言はれましたが、これは私も至極同感であります。

以上述べた理由により宗教を學校に入れると云ふことは私立學校は暫らく措き官公立の學校に入れると云ふことは私は反對でありますけれども學生をして信仰を持たせると云ふことは大に主張するところで

あります。

學校に於て騷動の起るのは校長教員の罪であるけれども生徒も亦其責任を免るゝことは出來ませぬ、元來被教育者の身分として紛擾を起すと云ふことは自己に信仰なく隨つて信念なきを以て知らず識らず附和雷同するからであります、故に教育者被教育者も共に信仰は必要であります、例へば教育勅語を遵奉するにしても之を實行するの心力は是非共信念に依らねばなりませぬ、遵奉しなければならぬことは分つて居つても信念なきものは之を實行するの勇氣に乏しいのであります、さうして其信念は信仰に依つて得られるのでありますから信仰は何うしても必要であります。

今此章を終るに臨み信仰と信念との關係功果を表解して示して置きます。

- 信仰
  - 水行斷食法
  - 精神呼吸法
- 信念
  - 精神上
    - 向上發展心
    - 德義心
    - 安心立命
    - 大勇猛心
    - 靈力接觸
  - 肉體上
    - 肉體健康

第十一章　結論

顧みれば去る明治三十七年の五月、丁度日露戰爭の始まつた當時であつた、我國各宗教の主立た人々が發起となつて神佛耶各宗教家の大會を芝公園忠魂祠堂に開いたことがあつた、其時の開催趣意書によれば「一方

には各其信仰によりて人心を導き人をして安立と奉公との道を履ましむると共に他方には各派傳來の別を離れ博く人道の爲に盡し宗教の本義に基きて博愛平和の大道を擴充すべし」と云ふにあつた、さうして此趣旨を贊成して會同したる者無慮一千五百有餘名の多きに上つた實に盛なりと謂つべしである、然るに其後の結果に徵すれば何うも一時的の會合に過きなかつた樣に思はれる如何にも殘念な次第である、今日の狀態より見るに各其信仰によりて人心を導き人々をして安心立命を得させると云ふことは中々困難の樣である況んや各派傳來の別を離れ博く人道の爲に盡すなどと云ふことは實に容易のことでない近時新紙の傳ふる處によれば、政府は宗教を國民道德改良の上に善用するの計畫あり既に各宗に交渉中なりと、事の是非善惡は暫らく措き耶蘇教の如きは神社參拜祖先崇拜を撤廢するに非れば贊同する能はずとの回答をなせりと、若し果して信ならば是れ大なる誤である、實に耶蘇教それ自身の爲に不利益である、神社參拜、祖先崇拜は吾國民の性命である、此事は普通の宗教以外に於ける我國の特質である、日清戰爭に勝つたもこれがため、日露戰爭に勝つたもこれがため、吾國民に此觀念なくなつたならば國家の前途知るべきである、併し此觀念は容易に拔けません若し之を拔かうと思つたら間違ひます、佛教家はよく此間の消息を見拔きましたから我國情に同化せんことを勉め我神道を己れの藥籠中のものとしましたから遂に今日の盛大を來たし

たのであります、此れ之を察せず我民情を覆へして直に西洋傳來の宗教を其儘弘布せんとする如きは實に不得策である。

私は今本書の記述を終るに臨んで重ねて諸君に一言致しまする。

信念なき人は處世上の劣敗者である。

信念は信仰に依つて得らるゝものである。

信仰は宗教に依らざるも得らるゝものである。

非宗教的信仰　終

明治四十五年二月十三日印刷
明治四十五年二月十七日發行

非宗教的信仰
定價金三十五錢

著者　檜山鋭
東京市神田區錦町二丁目五番地

發行者　宮下軍平
東京市神田區裏神保町一番地

印刷者　安田德治郎
東京市神田區裏神保町一番地

印刷所　健進堂印刷所

不許復製

發行所　東京市神田區錦町一丁目
振替口座東京三四〇九番
電話本局三七一七番
二松堂書店

竹内楠三先生著

新版 精神療法 諸病根治 **心と病**

菊版洋裝美本 定價金五拾錢 郵税金六錢

俗に「病は氣から」と云ふ通り、心の身體に及ぼす作用は靈妙不可思議にして種々の疾病を惹起し又よく之を除去す、本書は著者が甚深の研究と非凡の考察力を以て人間の心的秘密を遺憾なく叙述し何人にも實行し易き斬新の心的疾病根治法を說述せる良書なり

竹内楠三先生實驗の著

好評 簡易 再版 實行 **心身強壯術**

菊版洋裝美本 定價金五十錢 郵税金六錢

著者多年の實驗的効果に徴し必ず強壯になり得べき秘決と其實行法とを一々懇切明快に說述せるもの一度本書を繙かば心身忽ち強壯となり得べし

元帥海軍大將 伊東伯爵閣下題辭
陸軍一等軍醫 菊地武恒先生校閲 樂養堂 鈴木豐太郎先生著

新版 食養衛生 **通俗百歲長壽法**

小本洋裝美本 定價金廿錢 郵税金貳錢

諸病百出身體不健康の者多き世の中人間必須の特別なる食養法を說き必ず百歲の健康を保つ養療法なり。男女の別なく必ず一讀すべき良書なり

男爵後藤新平閣下題辭
森槐南先生校閲 井上靈山先生選註

新形ポケット 選註 **李太白詩集** 新刊 忽再版

三方金箔付上製 特價金六十五錢 郵税金四錢

天來の詩人として古今に**超絕**せる李太白詩集を一讀せよ **特**に本書は**森槐南**先生の嚴密なる校閲を經たり

特色 一、假名交り總振假名に譯して讀方を示し 二、熟字成語故事等を略解し 三、各篇の大意を說明し 四、本文に符號を附し韻字平仄を區別す 五、印刷鮮明裝釘美麗紳士淑女机上携帶の美本にして又旅行家の好伴侶

訓註 **ポケット寒山詩集**

天金上製頗美本 定價金五十錢 郵税金四錢

寒山は所謂世の詩人でない、白樂天、李太白のやうな詩人の詩でなく生を脫し死を離れた天來の聲である、本書を一度手にせば三食を忘れて本書を閉ざす能はず

本書の特色 本文の外に假名交り文の讀方を示し最も細密なる頭註を施し携帶の便を計り小本洋綴の美本とせり

四十四年一月改正

良書之撰擇 名圖書總目錄 實費金七錢

四十三年十二月迄の各書店出版にかゝる有益高評を博したる圖書のみを集めて編纂したるもの故に良書を得んとせば先づ第一に此目錄を見よ、安全に良書を得らるゝなり

心理學催眠學大家　竹内楠三先生著

千里眼

好評忽三版　全一册

（洋裝菊判美本　定價金五十錢　郵税金六錢）

密封せる文字を讀み遠方の出來事を座ながらに手に取つて見るが如き不可思議力千里眼の存在は實驗上念々確認せられ其説明は今や學界の大問題たり本書は斯道の大家竹内先生が多年研究の結果本書を公にす千里眼に關する大疑問は本書に依つて解決せらる

心理學催眠學大家　竹内楠三先生著

催眠術の危險

新版　全一册

（洋裝菊判美本　定價金五十錢　郵税金六錢）

催眠術の書は既に説き盡されたり然るに其裏面に未だ世人の知らざる恐るべき大危險あり而して其危險の如何なる者なるかは恐らく世人の想像以外にあらん本書は斯道の大家竹内先生が其れらの危險を催眠術の本性より根底的に極めて公平明確に懇切痛快に論究説示せられたる快著なり

理學士　大森千藏先生著

普通生理衛生學

訂正六版　全一册

（密書百五十餘圖入菊版上製美本　定價金二圓郵税十錢）

人に在ては貴重なる身體に屬する物なし其生理を知り其衛生法を知らんとする者は何人も本書を讀め特に家庭及教室等には是非共備ふべき良書なり然り本書については既々せず世既に定評あり今や版を重ねる事第六版に及ぶ以て本書の價値を知られよ

田寺寛二先生著

動物の運動と心理と進化論

第二版　全一册

（密書數葉入　定價一圓二十錢）

動物の心理を研究し是れを基礎として彼等の運動其他外形上の狀態を論斷し更に一歩を進めて動物の進化論を説明し明透なる理論と懇切なる解説を下したる實に世に比類なき快著なり

蒼松　岩垂憲德先生註解選

莊子新解

新刊　全一册

（小本天金上製美本　定價金八十五錢　郵税金八錢）

特色

本文の外に懇切斬新なる讀方と詳解を附し細密なる頭註を施し。印刷鮮明製本優美ポケット入れの美本にして携帶に便せり

笹川臨風先生校訂註

ポケット榮根譚

第五版　全一册

（小本天金上製美本　定價金五十錢　郵税金六錢）

笹川臨風先生校訂註詳解

ポケット孫子吳子

最新版　全一册

（小本天金上製美本　定價金七十五錢　特價金六十五錢　郵税金六錢）

忽再版

本書は修養と處世の秘決を説ける東洋唯一の聖書にして論孟を裏面より説けるものなり論孟の書は仁義の大道を説けども處世の細微を盡さず復雜なる現代社會に於ける處世と修養の大問題を遺憾なく解決するは實に本書なり。特色、本文の外に讀方と細密なる頭註を施し小本洋綴の美本とせり之れ本書の特色なり

孫子と吳子は共に兵法を説ける書なることは言ふまでもなし、されど孫子十三篇吳子六篇の精神は之を處世に應用せんか必ず生存競爭の社會に成功を期すべし、軍人は勿論處世の秘訣を知らんとするものは來り本書を見よ特色本文の外に讀方と大意と詳註を施し小本洋綴の美本にして携帶至便なり

平田内務大臣題辭　服部北溟先生訓解

ポケット孝經

第三版　全一册

（小本天金上製美本　定價金三十五錢　郵税金四錢）

本書は人倫の根本を説けるものにして歴朝大に奬勵し全戸に一本を備へよと詔勅を下されし事あり家庭教育には是非共備ふべき教科書なり。又處世修養の基本は實に此の孝の一字に歸す

日本女子大學教授 白井規矩郎先生編選

五十進行曲集

全一冊

訂正二版 四六二倍判美本 定價金六十錢 郵稅金四錢

●編纂の目的 本書は男女師範學校及高等女學校等の教科用に適し又家庭の娯樂として演奏するに適する樣編纂したり ●本書の特色 本書は從來の類書と其選を異にして緩徐中庸、急速、等に區分して、如何なる運動遊戲等にも適用す殊に嶄新壯快なる曲數五十何れも歐米最近の傑作のみ

服部北溟先生註解

ポケット女大學

全一冊

附 女寶語敎

好評第三版 小本天金上製美本 定價金卅五錢 郵稅金四錢

東洋の婦德は本書に依つて定まる良妻賢母は本書に依つて養はる本書は最も嶄新なる註解を施し輕濃なる現代の女子に其行くべき道を示し女子修養の爲めに建てられたる一大證明臺なり

東京婦人學會編

婦女子の務

全一冊

新版 洋裝四六判美本 定價金四拾五錢 郵稅金六錢

十五歲以上の婦女子はどうしても讀まねばならぬもの

岡野英太郎先生編

往復自在

貴女用文五千題

全一冊

定價金三拾錢 郵稅金八錢

本書は女子用文を二樣又は三樣に例べ如何なる用文も必ず本書中に收む又上欄には熟語。女訓玉手箱。呉服織物名字。道具詞葉ずかい。雜事言葉遣。器財詞遣。點茶。活花。科理法等を載す。附錄として諸禮獨稽古を附す

西川三五郎先生編 學校家庭

兒童百話

前編 全一冊 第十二版 定價金廿八錢 郵稅金四錢

小學校や家庭に於て小供に話して聞かせる材料として教訓となるべき最も面白き話題六拾有餘を選び總振假名付に拾數葉の色摺口繪を加へあり小學校の先生や家庭の主婦は話方教授の絶好參考書となし又少年の讀物として無二の良冊子なり

西川三五郎先生編 學校家庭

兒童百話

後編 全一冊 第三版 定價金三十錢 郵稅金四錢

今回更に最も嶄新にして最も趣味ある童話八十餘種を蒐めて續編を發行す、乞ふ一讀あらん事を

三好理學博士序 農學士小西和氏著

日本の高山植物

全一冊 訂正三版 ポケット入上製美本 定價金四十錢 郵稅金四錢

（本書の內容）高山植物の意義登山、と高山植物高山植物の狀態、各帶の高山植物、高山植物分布の根原、日本のアルプス、高山植物の研究と其培養、登山の準備と戒心、植物採集と腊葉製造、日本人と高山植物、以上數十項に分ち一々圖解を以て最も簡易に有趣味の說明を下したれば學生諸君に勿論植物研究者等是非共座右に備へん事を

香川松石先生書

眞行草千字文

全一冊 菊第二版 和紙招美本 定價金四十錢 郵稅金六錢

國定教科書の習字筆者として知られたる香川先生の書にして眞行草の三體に分ちたり何人も文字を上手に書きたる者は此千文字を習ふべし

海城中學校講師 伊藤新亟郎先生著

算術模範的解法 全一冊

附試驗答案の模範的書方

訂正三版 定價金二十五錢 郵稅金四錢

本書は中等學校生徒又は各學校入學試驗豫習者の爲めに速成的に算術問題解法の極意を會得せしめんとす又世にありふれたる算術書と其撰を異にし多年研究に研究を重ねて最も珍らしき模範的の解法を示せり又問題の分類を明にし圖解を以て系統的に解法の根本を示し各種問題を解くに當り頗る懇切なり

初等數學研究會編

簡易 算術問題解答 全一冊

第二版 定價金三十五錢 郵稅金四錢

本書は嶄新適切なる問題約一千題を撰み一々其解き方と答とを示したる獨習上無二の良參考書なり

岡野英太郎先生編

實用問題 普通新算術 全一冊

第十版 定價金三十五錢 郵稅金八錢

（特色）㊀小學中學の各學校生徒諸子の便を計りたるのみならず傍ら家庭に在りて獨習する者の便を圖り編纂せり㊁解釋は最も簡にして解し易からしめたり問題は最も嶄新にして最も適切なる者のみを選出せり㊂止欄には少しく歩を進めたる定義、理論等を示し又問題の解釋及解式等を示し獨習者の師を要せず

堀越浪集先生編

記事論說 中等作文五千題 全一冊

第十二版 定價金三十錢 郵稅金八錢

本書は題名の示すが如く記事論說の作文は一として餘す處なく悉く本書に收めて遺憾なし、特に上欄には熟語。刑容詞。助字。重綴熟字。反對熟字。異名。格言。文範。等を載せて文章作法に資せり

埼玉縣師範學校教諭 有馬與藤次先生註解

十六夜日記通解 全一冊

新版 ポケット入上製美本 定價金五十錢 郵稅金六錢

十六夜日記の眞價は方丈記。土佐日記と共に世既に定評あり今茲に多くを云はず左に本書の特色を記す

特色 本文の外に細密なる頭註を施し嶄新なる註解を附し携帶の便を計り小本洋綴の美本とせり之れ本書の特色なり

埼玉縣師範學校教諭 有馬與藤次先生註解

方丈記通解 全一冊

新版 ポケット入上製美本 定價金三十五錢 郵稅金四錢

方丈記の眞價は十六日記。土佐日記と共に世既に定評あり本書は著者多年教授の研究に依り本文の外に細密なる頭註を施し嶄新なる詳解を附し携帶の便を計り小本洋綴の美本とせり

埼玉縣師範學校教諭 有馬與藤次先生註解

土佐日記通解 全一冊

新版 ポケット入上製美本 定價金五十錢 郵稅金六錢

土佐日記は十六日記。方丈日記等と共に世既に定評あり本書は著者多年教授の研究に依り本文の外に細密なる頭註を施し嶄新なる通解を附し携帶の便を計り小本洋綴の美本とせり

花を見て單に美しい花だと見たのでは興が少い本書は內外の美花二百種あまりを集めて一々花の表はす意味、洒落、惡口、神話、傳說、俚諺等を面白く書いて有ます又卷末の晶子女史の花の歌は實に最近の傑作である

與謝野晶子 江南文三 合著

は な 全一冊

洋裝頗美本 定價金六十錢 郵稅金六錢

獸醫學士 西川勝造先生校閲
在農商務省畜産課 武藤新平先生著

内外實用牧草圖說 全一冊

第二版 菊判洋裝美本 定價金九十五錢

（着色實寫圖六十餘種）

牛馬は勿論羊豚の飼育は是非共之を良好なる牧草に依頼せざるべからず著者多年の研究に依り本邦在來の野草及外國種牧草の既に本邦に栽培せられたるもの内成績の最も良好なる者七十有餘種を選定し極めて鮮明なる極彩色の密畫となし之れに詳細なる説明と栽培法及收獲法等を記述したれに有益の書なり

石川理學博士序文 澤田順次郎氏著

生物學と思想界 全一冊

第二版 定價金四十五錢 郵税金四錢

（密畫數葉入）

生物學の趣意、沿革、目的、諸學科との關係及び動植物の異同等を辨明して進化論の要旨に論究せる者即ち本書なり其生物學が思想界の羅針盤となりてあらゆる人事の源泉たる所以を説述せる所快刀亂麻を截つの概あり乞ふ速に一讀あらんことを

西川三五郎先生著
學校家庭歴史訓話

今月今日 全一冊

第二版 菊判上製美本 定價金一圓二十錢 郵税金八錢

本書は我國三千年間の日本歴史を知る事を得べく吾人日常の修養資料として又國民の回顧記念史として缺くべからざるものなり又今月今日を以て悉く我日本國民の變遷を叙述し最も通俗なる言文一致を以て文明的に評論を加へたる良書なり

高橋藤三郎 小山保之助 兩氏合篇
巡査看守

受驗準備書 全一冊

第二版 定價金四十錢 郵税金六錢

巡査看守の受驗書何種ある共未だ大改正に基きたる完全の受驗要書なきを憂ひ受驗者諸氏に便宜を與へんとの意志より本書を編述せられたるものなれば巡査看守の受驗に應ぜんとするの士は勿論假令其職に有る人と雖も執務上の大參考書なれば受驗者及本職を問はず速に一本を備へられん事を

加瀨、牧野、西村、渡邊四辯護士校閲
日本中央法學士 岩崎勝三郎氏著
地所建物金錢物件

實用法律顧問 全一冊

新版 定價金六十五錢 郵税金八錢

本書は地所家屋の賣買及貸借以下二十編百餘項に分ち萬人の生計に必要なる法律を集め解釋を下し其實例と判例とを引證し取るべく方針を示し又債務者の詐僞奸手段と豫防策を掲げて權利者保護に力むる行文最も通俗平易にして何人にも一讀了解せらるゝ無二の寶典なり

辯護士 武地彌三郎先生著
自問自答
日用法律事件百般

鑑定顧問 全一冊

新版 定價金五十五錢 郵税金六錢

本書は民法・戸籍法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法・鑛業法・郵便法・徴兵令・警察法規等の内より日用生活上に横だはる諸法律を問答體に編纂し言文一致を以て最も通俗に惣振假名を附し如何に初學者にても自問自答如何なる事件にても速座に鑑定解答を與ふる顧問なり

中央大學法學士正八位勲六等 植田彌吉著
新舊對照

改正諸税法註釋 全一冊

附關税定率法

第三版 定價金三十五錢 郵税金四錢

本書は四十三年の議會にて改正せられたる諸税法を新舊對照し且つ親切なる註釋を施し何人にても一讀了解せしむる實用的萬戸必備の寶典なり

法學士 高橋藤三郎先生編
改正

刑法 附 刑事訴訟法、監獄法及施行法 註釋 全一冊

監獄法施行法

定價金七十五錢 郵税金八錢

新刑法に付き逐條之が解釋をなし且つ概ね其の實例を擧げて説明せり殊に文章最も平易通俗にして傍訓を施したるを以て何人にも之を解釋する事を得るなり故に未だ法律思想の有らざる者と雖も一讀其意を解する事容易なり

四十七士畫譚 全一冊

巖谷小波先生校閲　沼田笠峯先生編
兒童赤誠訓

第三版　寫眞版七十餘個入　四六判頗美本　定價金六十五錢

本書は少年小女の教育に經驗ある編者が元祿義擧の顚末を平易な文章で述べると共に七十有餘の鮮明なる寫眞版を加へて四十七士の個々の行動も鮮明にあらはし少年文學の泰斗なる小波先生の校閲を經たるもの少年少女の士氣を養ふには最も適當なる讀みものて有升

模範の兒童 全一冊

西川三五郎先生著
學校家庭

第二版　定價金二十五錢　郵稅金四錢

本書は模範的兒童の生活を日記體に記述したるものなれば善良なる兒童の性行、行爲擧動、言語、交際等學校家庭に於ける兒童の龜鑑として必讀の良書なり

◎我子を善良なる兒童にせんと思ふ親は必ず本書を讀むべし

◎善良なる兒童となりたき者は是非本書を讀め

偉人の幼時 全一冊

江口天峰先生編
教訓童話

新版　定價金二十八錢　郵稅金四錢

偉人の少年時代に言つた事行ふた事、をかしき事、面白い事、感心すべき事、手本となるべき事等を誌れにも分り易き口語文を以て極く面白く編述したものなれば少年の讀物として又家庭に於て話の種本として無二の良書なり

酒と煙草 全一冊

トルストイ伯原著
文學士兒島貞氏譯

第二版　定價廿五錢　郵稅金二錢

酒と煙草は心體及精神に害ありや之れトルストイ伯の大議論なり本書は兒文學士獨特の筆を以て譯されたり

犯處罰令註解 全一冊

小山保之助先生著
警察

第三版　賣價金五錢　郵稅金二錢

處罰令は我々國民の悉く心得置くべき法典なり本書は最も親切に最も簡易に註解を附したれば何人にも一讀了解せらるゝ良書也

馬體鑑定法 全一冊

横井農學博士校閲　寺田建二氏著
通俗

定價金拾五錢　郵稅金二錢

馬體名稱圖を入れ馬全體につき一見明白に大綱を了解し要義に透徹せしむる目的を以て編纂したる斯道無二の好著なり

片假名信號法獨習 全一冊

文部省御許可

定價金五錢　郵稅金二錢

片假名信號體操法を先生いらずに圖解を以て獨習の出來る便利なる本であります

國語の入學準備 全一冊

新國定準據
關忠四郎先生編
中學校　師範學校　高等女學校　實業學校

定價金卅五錢　郵稅金四錢

中學校。師範學校。高等女學校。實業學校等に入學しようとする諸氏の爲めに其の入學試驗に必要なる國語に就き其の學力を發はんとして編纂したるものなり故に本書を一讀せば必ず入學試驗に級第する事が出來る

827
609

トルストイ伯原著　文學士　兒島貞氏譯

酒と煙草

四六判美本全一冊
定價金二十五錢
郵稅金二錢

酒と煙草は身體及精神に害ありや之れトルストイ伯の大議論なり本書は兒島文學士獨特の筆を以て譯されたり酒を飲む者煙草飲む者是非一讀を要す

木村鷹太郎氏譯

バイロン傑作叢書

宇宙人生の神秘劇

天魔の怨

四六判上製頗美本
定價金七拾錢
郵稅金六錢

艶美の悲劇詩

パリシナ

英和對照

四六判假綴美本
定價金二十五錢
郵稅金二錢

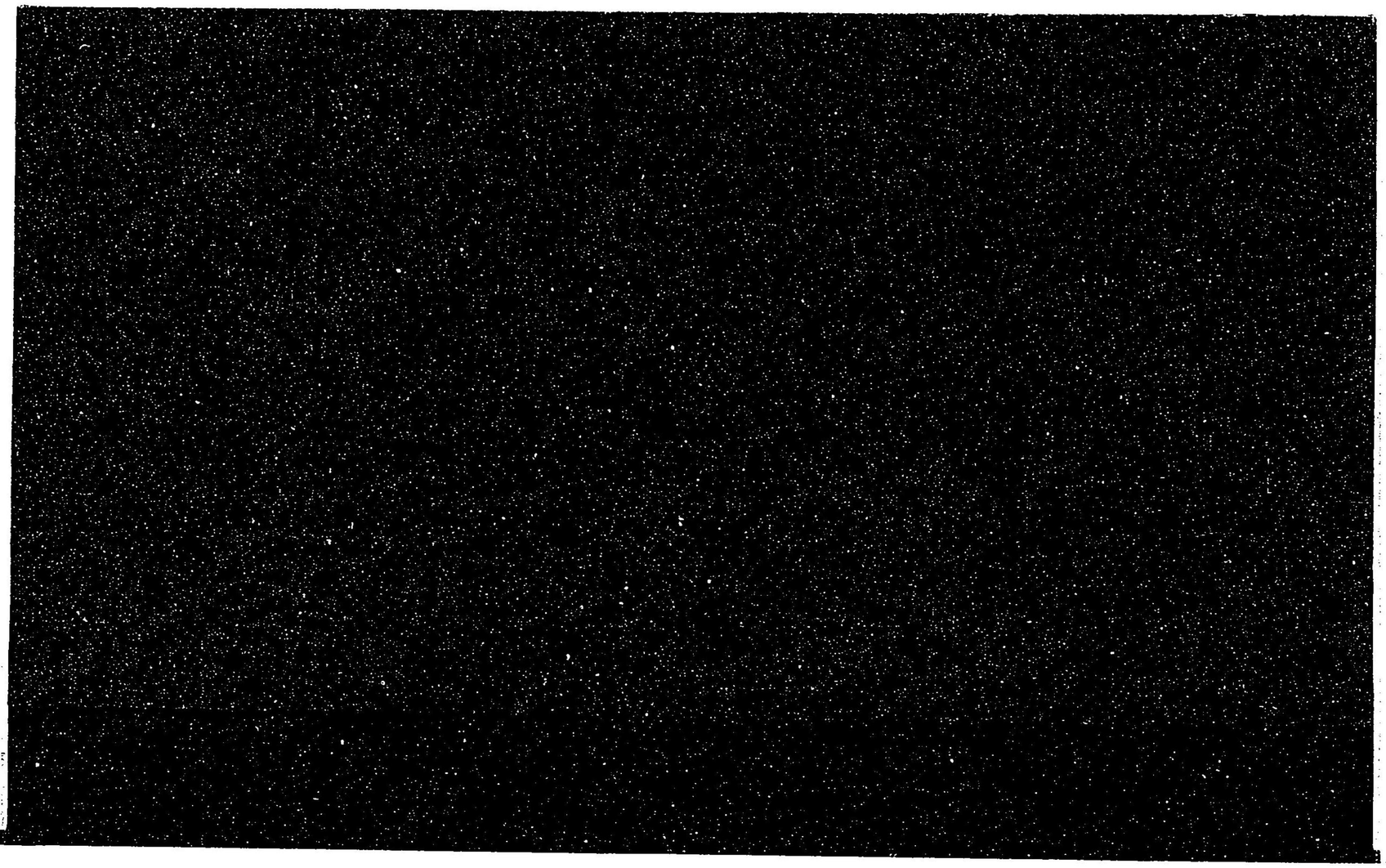
汗血千里

マゼツパ

四六判上製美本
定價金三拾五錢
郵稅金四錢

バイロン詩集は世界各國に空前の大作として驚動したるもの本書は傑作中の傑作を木村氏獨特の筆を以て譯され實に興味湧くが如し

327
639



327
639

013756-000-9

327-639

非宗教的信仰

桧山　鋭／著

M45
ABA-0245